

「エプソン 紙を減らす活動」

働き方改革で貴重な紙を半減し、システム化へ

紙は情報や思いも伝えられ、見やすく、理解しやすく、記憶に残りやすいなどのメリットがある一方で、森林資源の消費、大量の水の使用、製造時や輸送時のCO₂排出など環境面では負荷がかかります。また、大きな流れでいえば、デジタル化によってペーパーレスが進んでいます。

この潮流を前提に、プリンターメーカーとして「エプソンは何ができるか」を考えてきました。

こうした中で、エプソングループでは、紙を使う仕事のやり方を見直し、2021年9月までに一人・日当たりの紙使用量を半減（前年同期比）する目標を掲げ、「紙を減らす活動」を進めています。

この紙削減活動を通じて環境への貢献を図るとともに、電子化などによる業務効率化（生産性向上＝働き方改革）を図ります。さらに、社員自身の環境意識の向上にも結び付けることも目的にしています。

具体的には、エプソングループ内ネットワークに繋がるプリンターの印刷実績データの把握と共有化を可能とし、次のような活動を全社で実施しています。

- 1) グループ各社および事業部・本部毎に印刷データをベースとして分析する
- 2) ムダ、電子化、ワークフロー化など削減活動計画を立案・推進する
- 3) グループ各社および事業部・本部での良い取り組み事例を共有・水平展開する
- 4) 電子化・ワークフロー化のシステム化を推進

これに沿って、エプソングループ各社および各事業部・本部では、

- 1) 印刷ボリュームの多い業務を見直し、電子化を検討
- 2) 専用帳票を棚卸し、電子化・ワークフロー化が可能な業務の絞り込み
- 3) 会議で配布する資料は精査し、削減できるものから実践
- 4) 保管文書の電子化（PDF）を検討

などを進め、法律等で紙が指定されている必要書類以外はできるだけ削減します。

社内文書については、不要な紙の印刷をなくすとともに、電子化をベースとした承認フローの採用でペーパーレス化し、全社文書管理システムに集約統合します。

また、社外との文書、契約書や請求書などは、外部サービスの活用により、電子署名化を進め、証憑記録を残せるようにします。

電子化を進める

帳票類を紙から電子化へ進めるにあたり、各部門で定めている専用帳票の棚卸を行い、電子化とワークフロー化の可否を検討、電子化を進める内容を抽出します。また、業務の生産性を高めるため、電子化を進めるべき業務・作業を抽出します。業務プロセスの見直しをすることで、重複業務や廃止してもいい業務などが見えてきます。

そして、電子化すべき案件をまとめ、全社事務局およびシステム部門に申請、電子化とワークフロー化を進めていきます。

活動を見える化

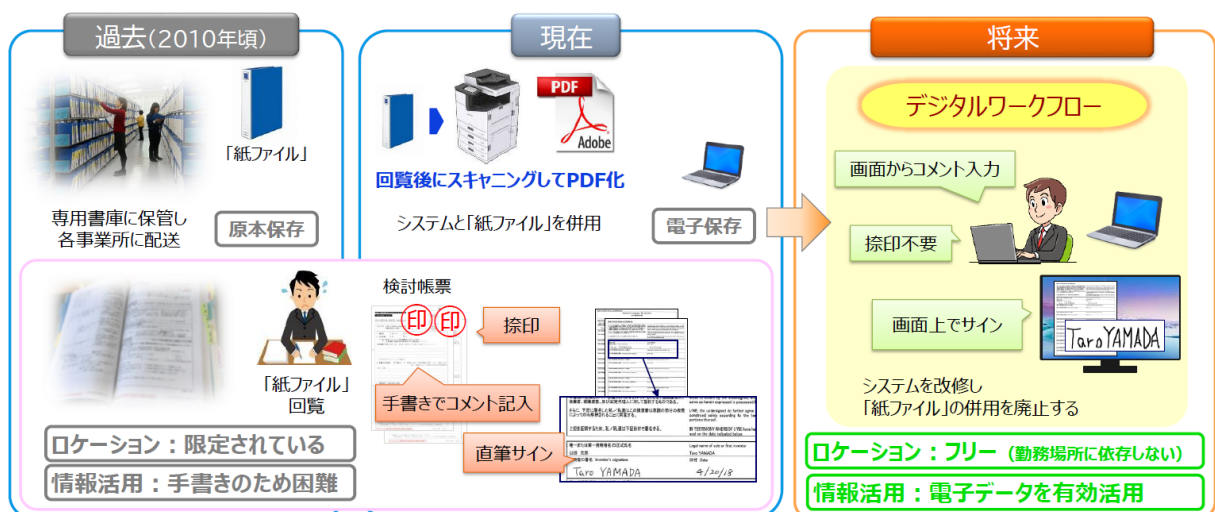
グループ各社、各事業部・本部の活動を見える化するため、社内専用サイトで削減状況を共有するとともに、良い事例について「Good Job 自慢」として広く募集したり、先人に学ぶ取り組みとして他社事例を紹介したりするなど、水平展開しています。

Good Job 自慢では、タブレットを活用した工場内設備点検結果の電子ファイル化、社内保険や薬の申し込みの用紙廃止など多くの事例が投稿されています。

事例紹介

ある部門では、過去において紙ファイルの原本を専用書庫に保管していたものを現在では紙の書類をスキャンしてPDF化するというシステムと「紙ファイル」の併用までを進めてきました。

今後は、ロケーションフリー・情報有効活用を目的に、デジタルワークフロー化により画面上でコメント入力やサインをし、捺印不要とする完全デジタル化を目指しています。



環境配慮型オフィスを目指して



エプソンでは、紙削減活動を推進する一方で、プリンターメーカーとして紙に責任を持ち、紙の資源サイクルが活性化できる環境配慮型オフィスの実現を目指しています。エプソンの主要拠点では紙の回収ボックスを設置し、使用済み用紙を回収し、「**環境配慮型オフィスセンター**」や「**アップサイクルセンター**」で**乾式オフィス製紙機「PaperLab」**によって新たな用紙に再生産しています。

新たな用紙は、コピー用紙への再生だけでなく、厚紙や色付き紙にアップサイクルし、ノベルティのノート・お礼状カード・カレンダー、また社員の名刺や社内表彰用の賞状、メモパットなどとして活用しています。

環境配慮型オフィスによる小さな紙循環サイクルによって、使用済み用紙から新たな用紙の再生産・アップサイクル、輸送時 CO₂ の削減、コピー用紙の購入量削減を実現しています。

エプソンでは、2020 年度にコピー用紙の 40% を DFP（ドライファイバーペーパー）に置き換えており、今後さらに DFP への置き換えを進めていきます。

> [「環境配慮型オフィス」についてはこちらをご覧ください。](#)

未来に続く技術「ドライファイバーテクノロジー」

「PaperLab」の中核技術である「ドライファイバーテクノロジー」を搭載した装置により、使用済みの紙から、プリンターのインク吸収材や機器の吸音材、緩衝材などに再生、活用しています。

さらに、例えばこれまでプラスチックで作っていたトレイやコーヒーカップ、机・椅子などを製品化することも可能です。石油由来によるプラスチックのような地下資源に頼らない天然材料としての紙を有効活用する「ドライファイバーテクノロジー」が、環境負荷を減らすものづくりに貢献するスマートサイクルの世界を創出することにつながるのです。

> [「ドライファイバーテクノロジー」についてはこちらをご覧ください。](#)

以上